

(3)全体講評

- ・ 良いと思われる点
- ・ 力を入れている取り組み
- ・ さらなる改善が望まれる点

(4)個別項目の概要、(全体講評に挙げた良い点、力を入れている取り組み、改善点を除く)

◎良い点、努力していると思われること。 ▲改善または努力していただきたいこと

- ① ▲カテゴリ1. 講評2. 経営層の行動についてより一層の努力を。
- ② ▲カテゴリ2. 講評1. 守るべき規範・倫理等の徹底にさらなる努力を。=改善3.
- ③ ◎カテゴリ2. 講評2. 施設の専門性を活かした事業、短期入所での困難ケースの受け入れ努力。
- ④ ◎カテゴリ2. 講評3. 利用者の地域へのボランティア活動。
- ⑤ ◎カテゴリ3. 講評1. 利用者の意向、苦情への積極的な取り組み。
- ⑥ ◎カテゴリ3. 講評2. オンブズマンの積極的な活動。=「力」1.
- ⑦ ▲カテゴリ4. 講評1. 2. 事業計画のPDCAサイクルや課題の明確化、職員の参画等作成方法の検討、及び一体となった事業運営。=改善2.
- ⑧ ▲カテゴリ4. 講評3. ヒヤリハット事例の検証の徹底による事故防止への努力を。=改善1.
- ⑨ ◎カテゴリ5. 講評1. 新法移行に伴う職員配置、夜勤体制の見直しによる職員増の努力。
- ⑩ ◎カテゴリ5. 講評2. 職員の資質向上への努力(▲個別育成計画は今後の課題)
- ⑪ ▲カテゴリ5. 講評3. やる気向上への一層の努力を。
- ⑫ ◎カテゴリ7. 講評1. PCによる情報の保護・共有。
- ⑬ ◎カテゴリ6-1. 講評1. 情報提供の努力(▲利用者向けの入所案内の作成)。
- ⑭ ◎カテゴリ6-2. 講評1. オリエンテーションの丁寧な説明。
- ⑮ ◎カテゴリ6-2. 講評2. 入所希望者に体験利用を勧め、不安なく入所できる取り組み。=良い点1.
- ⑯ ◎カテゴリ6-2. 講評3. 支援の継続性に配慮した移行先への情報提供。
- ⑰ ◎カテゴリ6-3. 講評1. 2. 支援の記録システムを活用した個別支援計画の作成・見直しの取り組み。
- ⑱ ◎カテゴリ6-3. 講評3. PCシステム、連絡ノートなどによる情報共有の努力。
- ⑲ ◎カテゴリ6-5. 講評2. 利用者の意思を尊重した支援。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	入所希望者に体験利用を勧め、不安なく利用を開始できる取り組み
	内容	利用開始にあたり、不安解消のため園の生活を体験的に理解してもらうため、約1週間の体験利用を勧めている。入所前に体験することで、資料による説明や見学などでは十分知ることが難しいことについて情報が得られ、また利用者や支援職員がお互いを知り余裕を持って園での生活を始められ、利用者、家族も不安なく早期に園の生活になじみ、スムーズな受け入れにつながっている。入所直後の不安ストレスの軽減のため、利用者の特性などに注意を払いつつ見守りを行い、状況を引き継ぎ時に必ず伝えて、適切な対応に努めている。
2	タイトル	利用者・家族の安心につながる地域の医療機関との連携・協力体制
	内容	利用者は年2回総合健康診断を受け、結果について内科の嘱託医の毎月の診察時に必要なフォローと助言を受け適切な医療につなげている。そのほか、精神科は月1回受診、歯科、耳鼻科、婦人科は年1回近隣の医療機関の協力で検診を受けている。また利用者の体調変化や急病発生時などにはこれらの医療機関との連携・協力のもと、迅速かつ適切に対応する体制が構築されていて、利用者、家族のみならず職員の安心にもつながっている。このほか地元大学から毎月、理学療法士、作業療法士の派遣を得て利用者の身体機能の増進を図っている。
3	タイトル	居住の場と作業場所の分離への積極的な取り組み
	内容	H21年から、数キロ離れた地区の「入笠会館」を借り上げ、日中活動センターとして「てんとう虫班」「紙風船班」等の作業や職場実習の場として利用している。センターは毎日使用し特に月、水、金は1日作業日で昼は弁当を園から届けてもらっている。日中活動拠点として、園から移動することで居住の場との分離により、利用者の生活にメリハリをつけ、働く場としての意識付けにもなっていて、センターに行くことが利用者の楽しみであり好評である。センターは作業活動のほか料理クラブや雨天時の外出を伴うクラブ活動の場としても有効利用されている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	ヒヤリハット事例に対する検証等を徹底し事故防止につなげる一層の努力を
	内容	防災訓練の実施、災害時の地域との応援協定や事故対応・事故防止、感染対策、各棟別服薬マニュアル等を整備して利用者の安全の確保に努めている。しかし事故・ヒヤリハット事例については、マニュアル等に沿って対応し防止に努めているが減少につながっていない。特にヒヤリハットについては、書きやすい様式への変更など事故防止につなげるべく積極的に取り組み始めているが、いまだ十分とは言えない状況があり、発生時の情報の共有や検証、再発防止策の検討及び徹底等による事故防止になお一層の努力を期待する。
2	タイトル	事業計画の作成方法の検討を行い、職員と一体となった事業運営を
	内容	事業計画は、PDCAサイクルに沿った作成に取り組み、初めに前年度事業の実施結果をもとに事業報告をまとめていくが、医務部門を除き実績中心の報告となっている。そのため反省や検証が十分でなく次年度計画に取り組むべき課題や目標が不明確となっている。こうした取り組みについて、リーダー層も含め職員の評価が低く、また計画への理解が十分なされていない状況が見られる。PDCAサイクルの徹底と職員の参画による計画の作成に努め、共通認識の形成を図り、職員と一体となった事業運営を期待したい。
3	タイトル	職員として守るべき規範・倫理等の徹底に取り組んでいるがさらなる努力を
	内容	倫理綱領、行動指針を定め、また支援方針に「利用者の人権尊重を最優先した福祉サービスの提供の徹底」「利用者に対するいかなる権利侵害を見逃さず」を掲げ、周知するとともにその遵守に取り組んでいる。さらに権利擁護の研修に参加させるほか、権利侵害防止について新任職員への研修、23年4月から職員会議の場を利用した約1時間の学習会実施などその徹底に努めている。こうした取り組みは職員から評価されている。しかし、職員の不適切な行動も見られ、また利用者から職員の言動についての意見もあり、さらなる努力が求められる。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-1-1	利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)
タイトル①	利用者等の意向や要望・苦情に適切に対応するためオンブズマンが積極的に活動している	
内容①	利用者、家族の意向や要望・苦情に適切に対応するため3名のオンブズマンを委嘱している。オンブズマンは毎月定期的に来園するほか行事その他必要のつど来園して利用者や家族と面談し意向・要望等の聞き取りを行い、利用者が気軽に相談や話のできる存在となっている。聞き取った意向・要望等は園から託された事項等も含めてオンブズマンで構成するサービス点検調整委員会で検討・協議し解決策の助言・調整、支援方法の改善等の助言を行うなど積極的に活動し、サービスの向上につなげている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-4	利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル②	支援の記録システム、連絡ノート等を活用した情報の共有化に積極的に取り組んでいる	
内容②	システムは各部所の7台のPCと接続され利用者の日々の支援に関する情報を午前と午後(夜間)に即日入力している。「個人別実行日誌」画面から個別支援計画の重要事項と特記事項を中心に記載し、その記録は食事、入浴・排泄等の生活、健康、作業、服薬等の各項目にリンク・集約され、職員はいつでも最新の利用者状況を確認できるようにしている。職員はこの記録を勤務前に確認するしくみがあり、また朝・終礼時の口頭連絡、引き継ぎ書、さらに各棟の連絡ノートや報・連・相ノートの活用など複数の手段で情報の共有化を図り、適切な支援に努めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-3-2	利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している
タイトル③	課題を明確にした個別支援計画(ケアプラン)が作成され適切な支援につなげている	
内容③	ケアプランは最低半年に1回見直している。見直しにあたり利用者との面談による意向確認と家族には面談または「ケアプラン要望書」を送付して具体例をあげて詳しく意向を確認している。また健康、生活動作、コミュニケーション、日中活動等7領域のアセスメント表でチェックすると共に、対応レベルを確認して利用者一人ひとりの課題を明確化している。これらの意向や課題をもとにモニタリングシートと主任等がまとめた計画案を「個別支援計画検討会議」で検討し決定している。的確に把握した課題をもとにケアプランを作成し適切な支援につなげている。	

カテゴリ-8 昨年と比べて良くなったと思う点 (カテゴリ-1~7に関する活動成果)

- ・利用者支援において個々に希望する楽しみを積極的に取り入れようとする考え。
- ・利用者の意向の聞き取りと実践。薬の誤薬。社会人・福祉サービス従事者としての意識啓発、事業所理念の周知。
- ・現場職員間で意見交換や支援方法を相談する場面が増えている。
- ・個別支援計画の内容が利用者、家族の希望が多く反映されるようになった。
- ・利用者の意思を尊重しようとする姿勢は職員個々に増えていると思う。日中活動も利用者個々に合わせ時々にはあるが利用者の要望を取り入れ、行えるようになってきている。
- ・職員数が増えたことで、余裕が持てる。

特に良いと思う点

主として組織に関する事項

- ・職員が考えて実践することにより余程の内容でない限り、職員の考えを実践させてくれる。職員が考え、実践しその結果から次も考えることができる。
- ・部分的には皆で意見を出し合い、良い方向へ持って行けるよう話し合える。

主としてサービスに関する事項

- ・園の生活が楽しみになる支援を積極的に取り入れられること。
- ・利用者意向に添った個別支援計画の立案と実践の着実性。
- ・利用者の人権については重要視されている。
- ・利用者の高齢化に対応している。(ハード・ソフト面)
- ・緊急一時保護に対しては難しい方でも協力し受け入れている。
- ・利用者の健康を維持できるよう支援を行っている。
- ・徐々にではあるが、利用者が主体性をもって充実した時間を過ごせる場になるような取り組みが増えている。

特に改善したいと思う点

主として組織に関する事項

- ・人事の採用において、仕事がないからこの仕事に就くといった考えの職員の採用はやめて欲しい。
- ・定期的な棟移動を行うことで、他棟の利用者のことも知り、同じように長くいることでの変なベテラン化を防ぐ。
- ・人材育成は緊急性が高いと思う。
- ・他棟間の理解が乏しく少々思いやりに欠ける。
- ・社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知しているが、徹底できないことも見られる。
- ・職員のモチベーションの低さ。モチベーションブレイカーの廃絶。

主としてサービスに関する事項

- ・利用者が地域の資源を利用し多様な社会参加ができるような支援。